

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.64

2021.SEP.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 https://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp

NUPRI 第27回定時総会

令和3年6月25日

午後2時30分～

ホテル国際21にて開催

本年度も「観光」を 基軸に地域社会への 貢献度を高める

理事長あいさつ

■実りある活動の継続で 地域に貢献

市村次夫 理事長



ことを感慨深く思い出しました。そういう意味では、ここに集まっておられる会員の皆様もいつかは長野市長に：などと考えながら祝電を聞いておりました。

さて、現在、長野県では新型コロナウイルスの第4波が到来していると報道がされていますが、関東エリアでは緊急事態宣言が発出されるなど、相変わらず厳しい状況です。実は、私の知り合いに横浜市内で兄弟それぞれに居酒屋を経営している人がいます。兄弟といってもコロナへの対策は全く違うもので、兄は1カ月休業して換気機能の高い空調設備を導入して経営も順調だということ。一方、弟は何も考えず、感染防止対策を何も講じていないという。経営も絶不調だそうです。さて、皆さんはどちらの店へ行きたいと思えますか。

コロナ禍にあっても、経営が安定しているところはいくらかでもあります。ですから、皆さん気持ちよく頑張っていたいただきたいと思えます。合わせて、このコロナ禍の中でご参会いただき重ねて感謝申し上げます。

祝電

長野市長 加藤久雄様より

NPO法人 長野都市経営研究所様の第27回定時総会のご開催を心からお慶び申し上げます。関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表しますとともに、ご参会の皆様方の一層のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

去る6月25日、「NUPRI 第27回定時総会」が、ホテル国際21にて役員・会員合わせ36名の出席により開催されました。新型コロナウイルスのワクチン接種や治療薬の開発は進むものの、いまだ経済界はその影響下にあり、NUPRIの事業活動も中止または開催数を減少するなど苦慮している現状でございます。そんな中、総会で先鞭を切ってあいさつされた市村理事長からは、「気落ちすることなく、頑張りましょう」という叱咤激励の言葉が出るなど、明るい未来の実現を目指して団結する大切さを改めて考える場となりました。また、加藤久雄・長野市長から祝電を賜りました。

各部会の発表後には、テレビなどマスコミでもご活躍の千曲市出身の弁護士、北村晴男氏の講演会を実施。お茶の間で人気のコメンテーターということもあって、約160名の聴衆にご参加いただき、講演会は大盛況となりました。その後、1年半ぶりに、ささやかながら、規模を縮小して懇親会が開かれました。

本日は、ご多忙の中、第27回定時総会にご参会いただきましてありがとうございます。先ほど、加藤市長からありがたい祝電をいただきました。考えてみますと、加藤市長もその前の鷲澤市長もこのNUPRIの元会員であり、我々NUPRIから長野市政に送り出した経緯があり、その時の

各部会活動実績と 今後の活動の予定

■産学連携部会

まちづくりは、人づくりから



掛谷嘉則 理事

現在、長野高専や長野県立大学との連携を検討しているところでございます。産学連携とは、本来どんな意味を持つのか。つまり地域と一体となって、NUPRIが大学とともにまちをつくるのが長野の活性化につながるのではないかと考えました。

1. 「まちづくり」すなわち「地域づくり」は、「人づくり」につながる
2. 大学のキャンパスでは学べない理論と実践の場を創出する
3. まちと学生をリモートでつなげる仕組みづくり

この3つの視点から、学生の若い力と行動力、各企業の知見を活かす取り組みとして、様々な人の意見を探り入れながら進めてまいります。まずは空き家再生事業をとおして取り組んでいければと考えております。

■「ここ掘れ！長野調査隊」

長野の隠れた魅力を発見・発信

竜野泰一 調査隊長

本事業の活動趣旨は、長野市内の隠れた魅力を再発見して、長野地域の多様な魅力を発信することにあります。「ここ掘れ！長野調査隊」では、今後も引き続き私たちが長年暮らしてきて、よく知っているはずの長野地域の隠れた魅力スポットや歴史遺産をもう一度新鮮な視点で調査・探索し、新たな魅力を引き出すとともに、時宜にかなった調査隊活動を行い、観光振興の一助としていきたいと考えております。今年度は秋以降に計画しておりまして、具体的な内容は今後検討してまいります。

■「花遊歩―牛に引かれて 善光寺参り」

善光寺参り

善光寺御開帳にパレードを実施

鈴木隆治 事務局次長

今年度につきましては、来年の善光寺



御開帳に合わせて着物姿の女性約70人ほどが表参道を歩くパレードを開催するための準備をしたと考えております。新型コロナウィルスの感染状況次第で変わってくると思いますが、なんとか来年は実施したいと思っております。

■中心市街地活性化活動

NUPRIの力は、大きな宝

倉石智典 理事



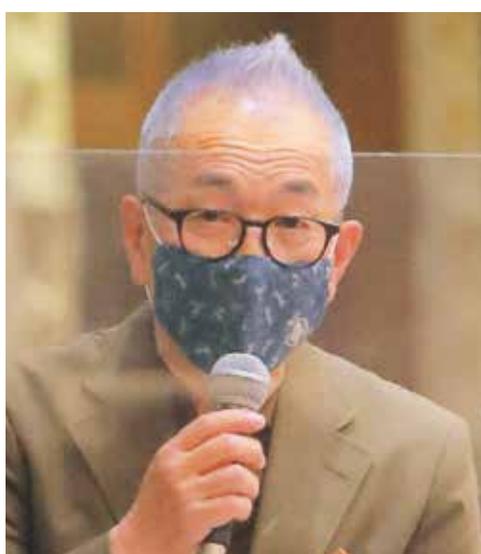
中心市街地活性化はNUPRIの基本

理念であり、当会の持つ力は大きな宝だと思っております。今後も長野市や長野商工会議所、まちづくり長野と定期的な意見交換会を行い、具体的施策を提言していきます。中心市街地へ移住を考えている学生や就業者が集まる拠点として、たとえば空き家の活用を考えるなど皆様を支援していきたいと思っております。

■わいがやサロン活動部会

NUPRI活動の核として好評開催

岩野彰 事務局長



「わいがやサロン」はNUPRI活動の核であり、昨年は2回実施し、既に79回を数えております。次回のサロンは7月9日に、千広建設の新井社長をお招きして犀北館で講演会を開催します。恒例のジャズナイトも12月に開催していきますと思います。当サロンは、皆さんのご協力のお陰で続けてこられました。今後もしもぜひ、ご参加をお願い申し上げます。

■新産業創出部会

地域活性化の目的を達成

竹内伊吉理事



グラントハイツ表参道式番館プロムナードで毎週月曜日に開催していた「採れたて野菜市」は、令和2年の4月末で終了しました。20年近く続いたわけで、歩行者の増加や店舗の開業など、当初の目的である地域活性化を達成することができました。また、こちらも長年続けているりんごの木オーナー制度は21回目を迎え、大勢の参加者のもと、昨年11月に収穫祭が行われました。しかし、コロナ禍ということもあり、売上げが減収しました。今後は、おいしい三水米ともども力を入れて、販売増を図っていききたいと考えております。

■スポーツ振興活動部会

① 長野パルセイロ応援活動

WEリーグが9月からスタート!

鷲澤幸一 副理事長

NUPRIも出資していますAC長野パルセイロは最終試合まで望みがあり、優勝パレードなども考えておりましたが、残念ながら残留となりました。レディースチームは、9月12日から「WEリーグ」が始まります。日本初の女子サッカーリーグで、来年4月頃まで試合が行われます。NUPRIとして、「スポーツが街を、人を元気にする」というスローガンのもと、トップチームはJ2昇格、レディースチームはWEリーグ参戦と活躍を期待し、応援していきます。



② 地域野球クラブ

「信越硬式野球クラブ」

都市大会へ向けて、一丸となって

榎本佳一 会員

11月開催予定の「都市対抗野球大会」への出場を最大の目標として活動を行っております。また、選手、所属スタッフ26名は、長野県内16社の企業に所属し、社会人野球の精神に基づき、仕事と野球の両立を図りながら、「地域に愛され親しまれる市民球団」を目指していきます。長野市在住の選手も増えました。ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

■講演会開催事業

地域貢献活動の一環として

鈴木隆治 事務局次長

6月の定時総会、2月の全体懇談会において、年2回「公開講演会」を開いております。今回は、弁護士の北村晴男氏をお招きして、「コロナ時代と法的バランス感覚」と題して開催します。市民の皆様や会員の皆様にとって、聴いて良かったなと思っただけのような講演会にしていききたいと考えております。



▶ NUPRI ZOOM井戸端会議の開催

コロナ禍で変わりつつある社会について皆様が思っていること、いろいろあると思います。ポストコロナのNUPRIのヒントを見つけるため、アンフォーマルに言い合う機会を用意しました。

NUPRIによる「雑談」のためのZOOM井戸端会議を2日間行いました。最近感じていることを言い合い、「雑談」により情報交換・人間関係の構築を図りました。

参加者／市村次夫理事長、鷲澤幸一副理事長、岩野彰事務局長、鈴木隆治事務局次長、掛谷嘉則理事、松本克幸理事、竜野泰一理事、田中和弘専務理事

開催日／6月15日(火) 18:00～19:00・6月19日(土) 17:00～19:00



コロナ時代と 法的バランス感覚

講師・・弁護士 北村 晴男氏



定時総会に続いて、北村晴男弁護士の講演会が一般公開されました。コロナ禍の中で人数制限はありましたが、テレビやラジオでも大活躍されている地元出身の北村弁護士の登壇に、約160名もの聴衆は興味深く耳を傾けました。オリンピックや開設されたばかりのYouTubeちゃんねるの話など、様々な話題が飛び出して、予定時間を超過するほどの熱気に包まれました。約2時間の講演を抜粋掲載します。

どこに価値を見いだすのか

北村です。よろしくお願ひします。この講演会を主催されている長野都市経営研究所さんについてお伺いしたところ、長野冬季オリンピックを盛り上げ、地域活性化に尽力する組織として設立されたとお聞きしました。そこで、東京オリンピックの話から始めましょう。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、テレビなどを見ていると、「日本人の命を危険にさらしてまでオリンピックを開催する必要があるのか」とよく議論されています。世論もそれに影響されてなのか、約7割ぐらいが同じ意見のようでした。僕は、これについては正反対の考え方を持っています。この問題をどう考えるかは、オリンピックあるいはスポーツ、あるいはアスリートに

対して、どの程度の価値を見いだしているかにかかっています。

私が子供の頃、高度経済成長とモータリゼーションが重なり自動車が多く普及しました。それと同時に毎年1万人以上の人が交通事故で亡くなりました。その時に、「人の命を危険にさらしてまで車を売る必要があるのか」という議論はまったくされませんでした。为什么呢。それは、車というものが生み出す社会における価値が大変大きいからだと思えます。人の命と車を単純に比較することは、できっこないわけです。そこでどうしたかという点、1万人以上の交通事故死を減らすために社会全体が努力しました。例えば車の性能を良くする、交通法規を守る、飲酒運転に厳罰を科す、道路交通網を整備する…。その結果、近年の交通事故死者数は、

年間約3,000人に減少しました。自動車メーカーも行政も、大変な努力を続けています。それが、社会全体の政策選択です。

年間約3,000人に減少しました。自動車メーカーも行政も、大変な努力を続けています。それが、社会全体の政策選択です。

コロナ禍でインフルエンザによる死亡率が減少

それでは、オリンピックの話に戻りましょう。僕はこれまで何十回とオリンピックを観てきて、ものすごい勇氣をもらいました。それは、日本人選手が頑張っ

【北村 晴男氏 プロフィール】

昭和31年千曲市生まれ。昭和49年県立長野高等学校卒業。昭和54年早稲田大学法学部卒業。昭和61年司法試験に合格。平成元年に東京弁護士会に弁護士登録。平成4年に港区赤坂に北村法律事務所を開設。平成15年に事務所を法人化（現弁護士法人北村・加藤・佐野法律事務所）。平成23年立川オフィス（支店）を開設し、現在に至る。

ルを取ったから、なんていう程度の話じゃないんです。一人の選手が小さい頃から努力に努力を重ねて、メンタルやコンディションを整え、スポーツの最高峰で闘っている姿を見れば、誰だって勇気をもらえます。

僕は高校時代、野球部に入って甲子園を目指しました。ついこの間、野球部の後輩と会った時、彼がこう言ったんです。

「先輩、世間ではオリンピックなんかやめろって言うてるけど、冷たいですよ。あれだけ競技に打ち込んでいるアスリートに向かって、やめるなんてとても自分には言えないです」。たった2年半ですよ。たった2年半、高校野球に打ち込んだだけの僕らがそう感じるんです。長年オリンピックを目指して全てを注ぎ込んでいる人たち。そういう人に対して、我々はどのくらいの価値を見いだしているのかということですよ。

政府も皆さんもそうだと思いますが、感染拡大防止のために徹底的な対策を講じています。仮に僕のような60代の人が感染しても死亡率は約1.3%前後です。現在、日本では病気による死者数が減っていることをご存知でしょうか。これは、インフルエンザや肺炎で亡くなる方が減っているからです。コロナ禍になって、皆さん毎



日手洗いをし、マスクをして外出も控えている。その結果として、感染症による死亡率が減少しているんです。

表現の自由は貴重な権利のひとつ

そういう状況にあるにもかかわらず、世論はオリンピックを開催するなという。もし、「東京2020オリンピック」を開催しなかったら、日本は都合3回、オリンピックを返上した国ということになります。1回目は、1940年の東京大会。2回目は同年に開催予定だった冬季札幌大会です。これは、日本にとって大変不名誉なことではないでしょうか。

来年の冬季五輪は、中国で開催されます。中国は、何があってもやり遂げるでしょう。そうすると、「自由な政治体制の日本は新型コロナウイルスを克服できず、オリンピックを開催できなかった。独裁体制の中国のほうが政治システムとしてはるかに優れている」とプロパガンダに利用されることになりそうです。それが中国国内の思想教育にも使われ、様々な場面で自由な社会を奪うことにもつながります。

自由を重んじる欧米の国々が中国による過酷な人権侵害を批判する中、日本のマスコミは中国批判をまったくしません。すぐ近くで起こっている悲惨な状況を伝えていません。皆さん、テレビのワイドショーなんかくだらないから見ないと思っている人も多いでしょう。実は、日本の民主主義は今、ワイドショーで作られているんです。少なくとも50代、60代以上の人たちの民意はワイドショーで作られ、選挙結果もこれに左右されています。

日本国民を見ていると、自由と民主主義がどれだけ素晴らしいか、本当はわかっているんじゃないかと思えて仕方ないです。日本には、表現の自由がありますね。これが確実に行われるためには、真実に基づく多様な報道が確保されなければいけない。なぜなら、本当のこと

を知らなければ、表現の自由は、(真実に基づかない)紙ぺらみたいなものになるからです。その結果示される民意も同様です。

日本とトルコの知られざる秘話

話題を変えましょう。実は、1カ月前にYouTubeで『弁護士北村晴男ちゃんねる』を開設しました。前から、「若い人、特に中学生や高校生の皆さんと近・現代史について語り合う番組をつくりたい」という夢があり、それを実現する場として選んだのがYouTubeだったんです。その放映第1回日の時に、この1冊に出会えて良かった。として紹介したのが、ノンフィクション作家・門田隆将さんの『日本、遥かなりエルトルの「奇跡」と邦人救出の「迷走」』です。ここで紹介された感動的な史実に基づいて、『海難1890』という映画が作られました。

海難というのは、海難事故のことです。1890年に当時のオスマン帝国(トルコ共和国の前身)の軍艦エルトゥールル号が和歌山県串本町の沖合で遭難します。海岸に大男たちが流れ着いて、それを町民総出で必死に救助しました。体格の大きなトルコ人を3人、あるいは4人がかりで当時のへこ帯というのをぐるぐる巻いて担ぎ上げ、お寺に運び込んで介抱するわけです。体が冷えきっているから、人海戦術で井戸から水を汲んできて、お風呂を炊いて体を温める。それでもダメなら今度は布団に寝かせて人肌で温める。それで、60数名の船員が助かりました。一方、亡くなられた方もそのままにはしません。遺体を集めて、それを手厚く葬ってあげました。トルコは親日国になりましたが、そこにはこんな秘話があったんです。

この救助をした人たちの中に、当時7歳くらいの少年がいました。今はもう亡くなられましたが、その方が生



きておられる時に、お孫さんが話を聞いたことがあるそうです。「おじいちゃん、なんでトルコ人を助けたの？」彼はこう言ったそうです。「ここは漁師の村だから、海で

生かしてもらっている。だから、海難事故というのは人ごとではないんだ。自分たちも同じように遭難するかもしれない。遭難にあった人を助けるのは、当たり前のことなんだよ」と。

この海難事故の話を、私は映画で観て初めて知りました。あまり知られていない話ですよ。でも、トルコでは小学校の教科書に載っています。だから、トルコ国民は、日本に親愛の気持ちを抱いているんです。

我々の行いは、やがて子孫へと返る

エルトゥール号の海難事故から95年後の1985年、イラン・イラク戦争が勃発しました。戦争が起こった瞬間、イラン在住の外国人は、命の危機に直面するわけです。早く飛行機で帰ればいいじゃないかと思えますよね。ところが、戦争になった瞬間にイランから飛び立つ飛行機が全てキャンセルになります。もう、イランから脱出できない。そこで、日本以外の全ての国は、自国民を救うために救援機を出します。ところが、日本だけは救援機を飛ばさない。憲法9条を後ろ盾に、「自衛隊を何が何でも海外に出すな」と主張するマスコミなどに影響されて、日本政府が動かないからです。

そこで、在イランの日本人は、どうしたのか。僕はここで商社の底力を見ましたね。当時の伊藤忠商事・イスタンブール支店長の森永堯さんは、トルコのオザル首相と個人的に深いつながりがあり、救援機を飛ばしてもらうように依頼しました。「日本人が、今イランに残されています。日本から救援機を飛ばそうとしても、遠いから間に合わないんです。どうかお願いできませんか」と頼みました。遠いからは嘘。嘘も方便です。オザル首相は、「よし、わかった」と、即座に決断します。こうして、民間のトルコ航空から特別機が来て、日本人は間一髪で全員脱出できました。

その時の航空機のパイロットやキャビンアテンダントが語っています。「日本人を救出するための航空機を出してほしいと言われた時、喜んで参加しました。なぜならば、1890年のあの時の恩を返すチャンスだと思っただからです」。

感動しました。我々の行動はつながっているんですね。死んだら終わりじゃないんです。昔の恩を忘れずに返そうとしてくれる人がいる。私たちの今の行動が最善であれば、必ず30年、50年、100年後の私たちの子孫や日本人全体のためになるんです。

振り返ると、今日日本はどうですか？中国共産党に実効支配されている（日本と歴史的なつながりのある）香港、ウイグル自治区、モンゴル自治区、チベット、そして今にも侵略されようとする台湾を日本人は助けようとしていますか？

かつて、中国政府によるチベット弾圧が続く中、毅然とした態度で対応したところがありました。善光寺です。北京オリンピックの聖火リレーで、その出発点が善光寺になる予定でしたが、「聖火リレーに協力することは、中国による圧政を認めたことになる」とチベット問題を理由に善光寺は辞退しました。この時に僕は、善光寺は素晴らしいと思いました。今、日本の近くで苦しんでいる

る国や人々がいるのを知りながら、救おうとしない日本人は、どうなんですか。何も中国に戦争を仕掛けようという話じゃないんです。我々が声を上げるだけで変わる可能性があります。その声を上げることで、50年後、100年後、我々の子孫に必ず返ってくることもある。そう思わせてくれた『日本、遥かなり』でした。皆さんも、時間があったら是非読んでください。そして、私のYouTubeちゃんねるも是非ご覧ください。

